

屋根かけ完熟栽培による温州みかんの高付加価値化

農業研究部 果樹グループ

1. 研究の背景

近年の重油価格の高騰により、ハウスミカンの加温栽培の継続が難しく、加温を休止したハウスが増加しており、その対策が急務であった。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

ハウスミカンで栽培されていた早生温州みかんに袋かけ、または屋根かけを行い、二つの方法を比較しながら越冬完熟させて高品質化を実証した。

〈完熟栽培方法の比較検討〉



袋かけ栽培



屋根かけ栽培

完熟栽培による糖度、果皮色の向上！

	完熟前(11月)	完熟後(1月)
Brix	12.9	14.0
果皮色(a*値)	28.1	29.8

果皮障害(雨水の浸入によるもの)発生率

袋かけ	屋根かけ
10.7%	2.0%

作業時間(3人あたり)

袋かけ	屋根かけ
342.8果/60分	1358.5果/60分

屋根かけ栽培は、果実障害果の低減と作業時間の短縮に有効

3. 期待される効果

加温を休止したハウスミカン生産者の所得の確保と、遊休ハウスの活用につながる。
(平成26年産で、県内で約30tの出荷量)

4. 担当機関連絡先

農業研究部果樹グループ温州ミカンチーム
TEL：0978-72-0407
住所：国東市国東町小原4402